



プラスチック製レジ袋の提供禁止について

# 環境先進都市 かめおかの挑戦

## 次世代が生きる未来のために

次代を生きる世代に美しい自然環境を引き継ぐこと  
そして、亀岡らしい地域性がまちのにぎわいを創り出し  
持続可能なまちづくりを進めることは  
今を生きる私たちの責任です。

亀岡市は、自然環境の保全と地域経済の活性化に一体的に取り組む地域循環共生圏の創造を目指しています。環境を切り口にした様々な取り組みが、私たちのライフスタイルの変化や新たな経済社会の仕組みづくりにつながり、さらに、そのことが亀岡の地域ブランド力の向上とふるさとを愛する心を育むことにつながっていく。そのようなまちづくりを進めます。



お問い合わせ

☎ 0771-25-5024

亀岡市環境市民部環境政策課 亀岡市安町野々神8番地



詳しくはこちら

# 世界が抱える大きな問題 海洋プラスチック汚染の今

まちと海は  
川で繋がっている

世界では少なくとも年間約800万トンのプラスチックごみが海洋に流出し、この状況が今後も続くと、2050年にはプラスチックごみが魚の量を上回ると予測されています。(※)

海洋ごみの7〜8割は、内陸部の河川から流れ出たものであると言われています。まちなかのごみは、風や雨により河川へと集まり、やがて川から海へと流れ出し、回収することが非常に困難になります。

こうした海洋プラスチック汚染の問題は、生態系への影響に加え、人間社会へも悪影響を及ぼしています。この問題は、海に面している地域だけでなく、内陸部に住む私たちにも大きく関係しているのです。



保津川の様子  
提供:NPO法人プロジェクト保津川

## 海を守る世界の約束

2019年3月には国連環境総会で「2030年までに使い捨てプラスチック製品を大幅に減らす」という閣僚宣言が採択されました。また、EU(欧州連合)でも2021年からはストローや食器などの使い捨てプラスチック(10品目)が法律で禁止されることとなります。

2019年6月に開催された、G20大阪サミットでは「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が各国の間で共有されました。

これは、2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロに削減することを目指す世界の約束です。

このように世界では、レジ袋などの使い捨てプラスチックの削減や廃止が実施され、その動きはさらに加速しています。

## これまでの亀岡市の取り組み

亀岡市内を貫流し、私たちの生活を支えている保津川でも、プラスチックごみが大量に漂流し、景観の悪化が観光産業へ悪影響を与え、多様な川の生態系への影響も懸念されています。亀岡市では、2004年頃からこのプラスチックごみを身近な問題としてとらえ、保津川下りの船頭さんやNPO法人、自治会をはじめ、多くの市民のみなさんによる、清掃活動を実施していただいています。

2012年には、内陸部の自治体として初めて「海ごみサミット」を開催し、川から海へごみを出さない意識のつながりを国内外に向けて呼びかけました。その後も「保津川の日」の河川清掃イベントをはじめ、海ごみの発生抑制対策に継続的に取り組んできたことが、2018年12月の「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」の発信へとつ

ながっています。

2019年度からは、環境とアートが連携した取り組みである「KAMEOKA FLY BAG Project」を展開。役目を終え、廃棄される予定のパラグライダーの生地からオリジナルのエコバッグを作成するワークショップを通じた普及啓発に取り組んでいます。

また、市民のみなさんと一緒に気軽にウオーキングしながら「コウオーカー事業」も実施し、ポイ捨てのないきれいなまちづくりに取り組んでいます。

さらに、環境先進都市亀岡のロゴマークを活用し、市民のみなさんと環境意識の共有を進めながら、全国に向けて広くメッセージを発信していきます。

## KAMEOKA FLY BAG Project



ワークショップの様子



JR亀岡駅北口に掲げた巨大FLY BAG



# 環境先進都市を目指す 亀岡市の挑戦



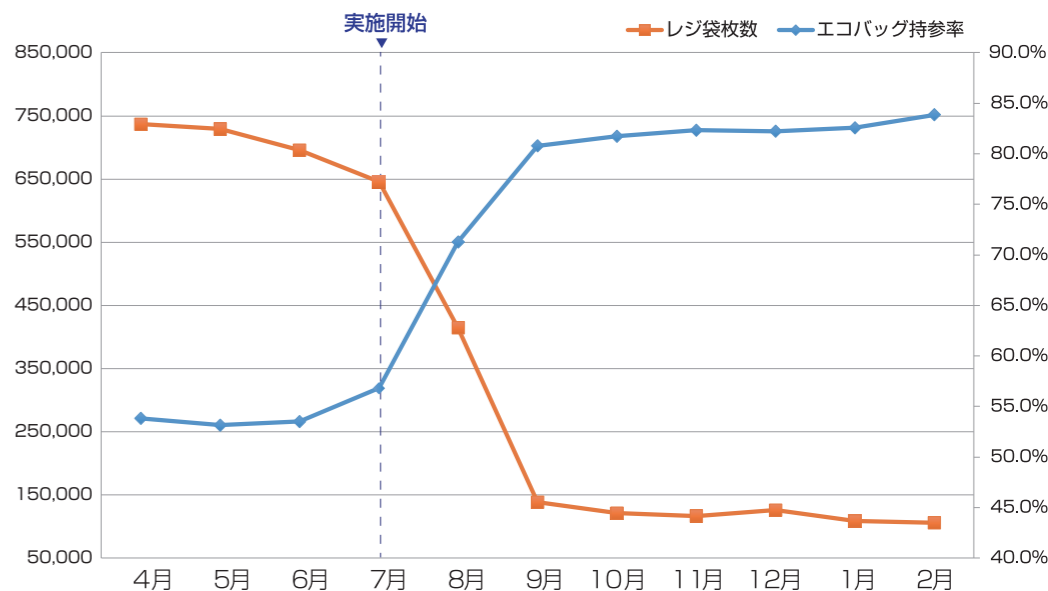
## かめおか プラスチックごみゼロ宣言

2018年12月13日、亀岡市長と亀岡市議会は、多様な生態系を育む「母なる川保津川」から、世界規模の問題である海洋プラスチック汚染の解決に向けて取り組む「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を共同で行い、2030年までに使い捨てプラスチックごみゼロのまちを目標に定め、世界に誇れる環境先進都市を目指しています。

その第一歩として、エコバッグの持参率100%を目標に掲げ、市内のスーパー（6事業者12店舗）と協定を結び、2019年8月20日からレジ袋の有料化を開始しました。

みなさんのご理解により、エコバッグの持参率は2月末で83%を超え、これまで累計で約338万枚のレジ袋削減効果が出ています。2021年1月1日からは、プラスチック製レジ袋の提供禁止がスタートします。お買い物の際には、引き続きエコバッグの持参にご協力をお願いします。

## これまでの取り組みでエコバッグ持参率83.9%に!



## 国のレジ袋有料化との違い

2020年7月1日から全国一律でプラスチック製買物袋の有料化がスタートします。

国の目的は、普段何気なく受け取っているレジ袋を有料化することで、私たちのライフスタイルを見直すきっかけとするものであり、この目的は亀岡市も同じです。ただし、国と亀岡市では、制度の内容に次のような違いがあります。

## 注意ください

亀岡市では、プラスチック製の買物袋は、国が有料化の対象外とした次のものであっても原則例外なく禁止にしています。

- 持ち手のないもの
- 厚さが50μm以上あるもの
- バイオマスプラ配合率25%以上のもの
- 海洋生分解性プラ配合率100%のもの



また、生分解性の袋であっても、無償での提供を禁止しており、さらに一歩踏み込んだ内容になっています。

2021年  
1月1日開始!!

# 亀岡市 プラスチック製レジ袋の提供禁止 に関する条例



## プラスチック製レジ袋 提供禁止

私たちの日常生活に最も密着したプラスチック製レジ袋の提供を禁止することで、プラスチックの利便性に依存してきた生活を見直すきっかけを作り、川から海へとプラスチックごみを流さない意識のつながりとごみ全体の減量に取り組むことを目指します。

※生分解性の袋とは、土壌及び水環境のいずれでも自然界に存在する微生物の働きにより最終的に二酸化炭素及び水に分解されるバイオマスプラスチックの袋や、これと同等以上の性質を持つ袋です。



## 紙袋等生分解性袋 有料提供

2020年3月24日、亀岡市議会定例会において、「亀岡市プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例」が可決され成立しました。

この条例により、2021年1月1日から市内の事業所での、プラスチック製レジ袋の提供が有償無償を問わず禁止になります。また、代替の紙袋等については、有償での提供となります。

# 亀岡市プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例 みんなの疑問

**事業主**  
**ご家庭**  
なぜ、プラスチック製レジ袋を提供禁止にするのですか？

プラスチックに依存しすぎた現在の私たちのライフスタイルは、海洋プラスチック汚染を引き起こしています。

使い捨てプラスチックの中でレジ袋は、最も生活に密着したものです。一人一人がエコバッグを持参する意識を持つことが地球環境を守ることに繋がります。



**事業主**  
**ご家庭**  
亀岡市だけ取り組んで意味があるのでしょうか？

亀岡市では、内陸部からの漂着ごみ発生抑制の取り組みを進めてきました。

亀岡市からプラ製レジ袋の提供禁止をはじめ、プラスチックごみゼロを目指すまちの具体的な取り組みを発信し、全国に一石を投じることで、桂川流域や全国の都市とのネットワークづくりを進めていきたいと考えています。

**事業主**  
**ご家庭**  
紙袋などの生分解性の袋についても無償提供を禁止するのは何故ですか？

使い捨てプラスチックごみだけでなく、ごみ全体の減量を目指すためです。

現在のプラ製レジ袋を単に紙袋に変えるだけでは、ごみの量が増えてしまいます。無償提供を禁止することで、エコバッグ持参を推進し、「使い捨て」のライフスタイルや意識を見直すきっかけになってきたらいいと考えています。

**事業主**  
**ご家庭**  
プラスチックごみの全体量のうち、レジ袋は少ないのでは？

レジ袋は、プラスチックごみ全体の2〜3%と言われていますが、私たちの生活に最も密着した使い捨てプラスチックです。

まずは、このレジ袋の提供禁止を、プラスチックに依存しすぎた生活を見直すきっかけにしていただき、使い捨てプラスチック削減に向けた第一歩にしたいと考えています。

**ご家庭**  
販売されているプラスチック袋も全てなくなるのですか？

お店で売られているプラスチック製の袋を禁止する条例ではありませんので、必要に応じてご購入いただくことは可能です。

ただし、プラスチックごみ削減に向けて必要最小限に控えていただきたいと考えています。

**ご家庭**  
我が家では生ごみ等を入れる袋として適切に処理しています。

多くの場合、ご家庭で再利用されるレジ袋は、適正に処分されています。

しかし、現状では必要以上にレジ袋が配布されており、まちなかでのポイ捨て、ガラス等の野生動物によるごみの散乱、大雨等によって、それらが川に流れ出し、結果として海洋プラスチック汚染につながっています。

**事業主**  
**ご家庭**  
ポイ捨てる人が悪いのではなごみですか？

もちろんポイ捨ては許されません。加えて「使い捨て」が当たり前になってしまっていることも含めて問題視しなければなりません。

2020年2月、議員提案により成立した「亀岡市ポイ捨て等禁止条例」と共に「プラ製レジ袋提供禁止条例」が両輪となって社会のルールづくりを進めてまいります。

**事業主**  
条例に違反した場合ペナルティになりますか？

条例違反者には、指導及び助言を行い、必要な場合は立入調査を実施します。改善されない場合、勧告を行い、正当な理由なく従わない事業者については、審査会(第三者機関)に判断を仰いだ上で、氏名公表を行うこととなります。

**事業主**  
**ご家庭**  
生鮮食品を包むロール状のビニール袋は？

生ものや水分の多いものなど、直接エコバッグに入れることが困難なものを包むロールの袋は対象外としています。ただし、使い捨てプラスチック削減の考え方からも、必要最低限の使用に控えていただきたいと考えています。

条例対象外だけど出来れば控えてね!



**事業主**  
**ご家庭**  
消費者や事業者が無理を強いてしまいませんか？

エコバッグは必ずしも、新たなものを買う必要はなく、ご家庭にある様々なバッグを活用していただければと考えています。消費者にエコバッグを持参していただくことで家計にやさしく、事業者にとってもコスト削減につながり、環境負荷の軽減にもつながると考えています。

**事業主**  
紙袋はコスト高になってしまっていますが。

事業者のコスト面の負担を軽減するため、市では共同購入や補助制度の創設を進めています。ただし、紙袋は無償配布を禁止していますので、消費者にも負担を求めることになります。

このことによりさらに、エコバッグが普及し、レジ袋の使用枚数が大きく減少することで全体的なコスト削減につながると考えています。



エコバッグで解決!

**事業主**  
プラスチックごみゼロに向けて出来る事はありますか？

レジ袋のみに限らず、テイクアウトの食品容器素材の変更や、簡易包装を心がける、量り売り販売の実施などが考えられます。プラスチックごみゼロに向けて積極的な取り組みをされている、事業者については市も応援していきます。